

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
子どもの保健Ⅱ Child Health Ⅱ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程必修)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
長谷川久美子	非常勤講師室	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
①一人ひとりの子どもの心身の状態や発達の過程を踏まえた的確な保健的対応、②子ども集団全体の健康維持増進と安全対策の実施体制、③地域社会との関わりや多様な社会のニーズに対応した健康支援や発達支援を主たる授業内容とし、保健衛生に関する基礎的知識・技術の習得を図る。				
授業の目標				
①子どもの健康及び安全に係る保健計画の作成と評価ができるようにする。②子どもの健康増進及び心身の健全な成長を促す養育環境や保健活動について説明できるようにする。③子どもの疾病とその予防及び状況に応じた適切な対応ができるようにする。④救急時の対応や事故防止、安全教育・安全管理ができるようにする。				
授業の方法				
講義、保健指導、実技指導、事例紹介などを取り入れて知識・技術の習得を図る。保健演習では、演習目的を確認し終了時にレポートを作成し提出する。				
学習の成果 (学習成果)				
①子どもの心身の発育発達過程を適切に把握し、健康支援や発達支援ができるように基礎的・専門的知識と技術を習得することができる。②日常の保育活動において健康観察が、子どもの病気や異常の早期発見につながることを理解した保育支援をすることができる。③救急時の対応や健康問題の解決に向けて、的確な判断と冷静な行動を身につけることができる。④子どもの安全対策の実施において、安全管理と安全教育の両面から説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (シラバスに沿って概要説明)	子どもの健康と健康観察		
第2回目	保育に必要な保健演習	子どもの養護に必要な保健演習の意義と基本		
第3回目	子どもの保健と保育者の保健	保育者の健康管理		
第4回目	子どもの保健と環境	乳幼児の養護		
第5回目	乳幼児の身体計測	身体計測の意義・計測時の注意と方法		
第6回目	身体発育評価演習	演習問題 (発育指数の計算・身体発育曲線による評価)		

第7回目	身体発育評価	発育経過からみた評価の仕方
第8回目	身体計測演習 * 演習室へ移動	乳幼児の身体計測の実際と記録
第9回目	乳幼児の生理機能の測定	生理機能測定時の注意と測定方法
第10回目	生理機能の測定演習 * 演習室へ移動	生理機能測定の実際と記録
第11回目	乳幼児の精神・運動機能発達の評価	評価の方法・感覚の発達検査
第12回目	乳幼児の異常症状と症状別対応①	保育における主な症状の見方と対応
第13回目	乳幼児の異常症状と症状別対応②	保育における主な症状の見方と対応
第14回目	子どもの事故と応急手当て	乳幼児の事故の特徴と応急処置・心肺蘇生法
第15回目	集団保育と保健	集団保育と保健対策・事故防止安全対策
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	授業や演習で使われる教材を準備して臨んでいる。授業に集中し、ノートをきちんととっている。不明な点は積極的に質問したり、自分の意見を明確に述べるができる。
レポート	30%	詳細に課題を探究し、内容構成がしっかりして課題の要件を満たしている。
調査報告書		
小テスト	10%	設問5題程度で実施し、授業内容が理解できているか、基本的な知識の習熟度を確認する。
試験	50%	学期末試験の評価基準C（60－69）以上とし、子どもの健康支援や発達支援に必要な知識・技術について理解できている。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：「子どもの保健演習ガイド」 建帛社 参考図書・参考資料：授業の中で適宜指示またはプリント配布 母子健康手帳		
履修上の留意点・ルール		
目的意識・課題意識を明確にして授業および演習に臨む。		